



8月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2024年 8月1日

保育目標 反省 すみません

- ・「ごめんなさい」「ありがとう」が、素直にいえる。
- ・夏の遊びを積極的に取り組み、楽しさを発見する。



【法話】

「お盆」

7月に入り、日中は30℃越えの真夏日・猛暑日が続きました。8月もうひと月、熱中症対策をしながら、暑さを乗り越える工夫をしながら、保育園生活を楽しんでいきたいと思えます。

日本の夏には、昔から全国的に「お盆」があります。各地で色々な風習・伝統行事がありますが、本来の「お盆」は、インドの「ウランバーナ」という言葉が、漢字の「盂蘭盆」にあては

められ、短く略されたもので、意識すると「解倒懸」という意味

です。「倒懸」とは、さかさまにつるされることで、大変苦しい状態です。その苦しみから解かれ救われるのが、「解倒懸」

です。お釈迦さまの十大弟子のお一人である目蓮尊者、そ

のお母さんが、仏法によって、餓鬼道の苦しみから救われたという話に基づいています。「倒懸」の状態にあるのは、この私です。さかさまをさかさまと知らず、苦しみを苦しみと知らない私に、迷いを迷いと教え示してくれるのが、お盆の行事です。

「お盆に先祖の霊が帰ってくる」というような俗信迷信に振り回されず、お盆には、先祖も私も共に、「倒懸(さかさま)」の苦しみ迷いから救われていく、仏教・お念仏の教えを、感謝の気持ちのなかで、聞かせていただきましょう。

合 掌

今月の行事予定

6・19日 礼拝

特別保育 10日～17日(申し込み終了)

発育測定(19日 ぞう・きりん

20日 うさぎ・りす・あひる・ひよこ)

9日 避難訓練 20日 クッキー作り

21日 誕生会 28日 佐山小学校見学(ほし組)

30日 奉仕作業②



「非認知能力とアタッチメント」

先日、東京大学保育実践政策学センターの遠藤利彦先生から、「安心感の輪が拓く子どもの未来」というお話を聞かせていただきました。乳幼児期の大切な能力は、やっぱり、『非認知能力』であり、『非認知能力』を「自己」と「社会性」の力であると説明されました。

- ① 自己に関わることは、自分を大切に、適切にコントロールし、もっと高めようとする力
- ② 社会性に関わることは、集団の中に溶け込み、人との関係を作り維持していくための力
- ③ 自己と社会性の両面に関わることで、自他間選択の中での感情の制御・調節する力

『非認知能力』を育む、ゆりかごのような役目となるのが、『アタッチメント(愛着)』です。アタッチメントは1人の感情の崩れを2人の関係によって立て直す事です。抱きしめたり、くっついたりすることも大切ですが、それだけではなく、怖くて不安なとき壊れた感情を立て直し、安心感を与えてあげる事です。

大人は子どもの「安全な避難所、安心な基地」と言われます。社会の変化に伴い、家庭環境も大きく変わりました。今まで母親だけが子育ての責任を負われてきましたが、現代は、子育ての役割を社会や保育園も応援しながら進めるようになってきました。

保育園は子ども達の「安全な避難所、安心な基地」であり、保護者にとっても、ただ変わらずにずっとあり続ける避難所・基地でありたいと願っています。仕事と子育てを両立させようと、日々奮闘されているお父さんお母さんをみていると、「頑張りすぎないでね」と、声をかけたくなります。お盆特別保育期間でも、園はお休みにはなりません。いつでも、どんなことでも、ご相談ください。

お知らせ

さやま保育園のホームページが新しくなりました。

